

2013年度日本気象学会奨励賞の受賞者決まる

受賞者：中村一樹（北海道大学大学院地球環境科学研究院）

研究題目：体験に基づいた気象災害の防災・減災，環境保全意識向上のための活動

選定理由：中村一樹氏は，1995年に財団法人日本気象協会北海道本部に入社した後，2009年に北海道大学大学院地球環境科学研究院の特定専門職員（事務職）として採用され，現在に至っている。

中村氏は，天気予報，気象及び気候に関わる情報は受け手の的確な行動に役立たなければその価値が半減するとの考えから，「体験」を軸とした日常の学びを提供する活動を継続的に実施してきた。北海道特有の雪氷現象について，観察，実験や体験などの小中学生でも理解しやすい数多くの手法を取り入れ，その地域の気象に関する防災・減災，環境保全意識向上に取り組んでいる。特に，冬期地震の被害を想定した簡易雪洞での宿泊では，夜の気温低下が比較的小さいことを感じさせるなど，単なる知識のみならず役立つ工夫がみられる。また，環境問題や防災，あるいは地域活性化といった，長期的な視点にたって活動していることが特筆される。

この他に，日本雪氷学会北海道支部，札幌管区気象台等が主催する気象に関するイベントの企画や運営に携わると共に，各種資料の執筆や小中学校等

での講習会や講演の講師を通じて，幅広い層への意識向上に貢献している。

これらのうち，特に，小中学校における気象教育や気象災害の防止軽減に向けた普及啓発については，そのアイデアの豊富さは高く評価されるものである。研究を本務としない事務職としてもその活動を継続しており，今後もさらなる活動に期待するものである。

以上の理由により，日本気象学会は中村一樹氏に2013年度奨励賞を贈呈するものである。

参 考 文 献

- 中村一樹，2005：雪氷体験を通じた子ども達の防災・環境保全の意識向上について。寒地技術シンポジウム2005寒地技術論文・報告集 Vol.21。
- 中村一樹，2008：身の周りの雪から考える地球環境。寒地技術シンポジウム2008寒地技術論文・報告集 Vol.24。
- 中村一樹，吉村暢彦，根岸淳二郎，佐藤祐介，佐藤友徳，山中康裕，藤谷康志，佐藤志穂，山岸奈津子，田中大介，星 宏聡，上林宣夫，橋本亮一，今野裕次郎，鈴木和仁，佐藤大介，岡崎善二，藤本 武，中村 博，2012：寒冷な地域特性を活かした産官学発展の取り組み。寒地技術シンポジウム2012寒地技術論文・報告集 Vol.28。